Title:道へき・複連　130号.ec6 Page:2 Date: 2007/11/20 Tue 16:41:08

第56回全道へき地複式研究大会空知大会を終えて

北海道教育庁空知教育局長
山　田　寿　雄

雄大な自然に溢れ、美しい田園風景が広がる空知の地において、全道各地から多くの参加者をお迎えし、第５６回全道へき地複式教育研究大会空知大会が、大きな成果を上げて終えることができましたことを大変嬉しく思います。

また、空知へき地・複式教育研究連盟におかれましては、各地区ごとに実行委員会を組織し、研究の深化、授業公開に向けた準備等に尽力してこられましたことに敬意を表します。

さて、中央教育審議会教育課程部会における平成１８年２月の審議経過報告では、言葉の重視と体験の充実が示されたところであり、各学校においては、言葉で学んだことを体験を通して納得させたり、体験したことを言葉で整理して表現させるなど、言葉と体験を表裏一体のものととらえ、指導に当たることが極めて重要であると考えております。

このような中、本研究大会において、子どもの学習状況を的確に踏まえ、一人一人の思いやつぶやきを生かしたり、地域の教育環境を効果的に活用した体験的な活動と関連を図った指導を工夫するなど、言葉と体験を関連付けた指導の在り方を、全道に発信していただいたところであり、重ねて敬意を表する次第であります。

今後、本道はますます少子化が進み、学校数の減少なども考えられるところでありますが、本研究大会の成果等を踏まえ、研究大会の運営等にも改善を加えながら、一人一人の子どもを大切にした実践研究が一層深められますことを御期待申し上げます。

結びに、北海道へき地・複式教育連盟の更なる御発展と道内のへき地・複式教育に携わる皆様の益々の御活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

第56回空知大会を終えて

第56回全道へき地複式教育研究大会空知大会
実行委員長　天　井　淑　子

第56回全道へき地複式教育研究大会を無事終えることができましたことに空知大会実行委員会を代表し心からお礼と感謝を申し上げます。

第１日、全体会、歓迎交流会と第２日、６市３町10分科会に全道各地よりおよそ700名の教職員並びに関係者の皆様のご参加を頂きました。

空知大会は第７次長期５ヵ年研究推進計画の４年次目にあたり、成果を最終年次となる檜山大会へ引き継ぐ意義を持った大会でした。そのため、加盟各校の研究テーマと第７次長計との関連・意識付けを図ること、積み重ねてきた管内大会の成果を踏まえ課題を明確にしつつ取り組むこと、後志・根室はじめこれまでの全道大会の成果から学ぶこと等、組織と研究体制を整え準備を進めてまいりました。

へき地複式校の減少等で組織的にも苦しい面はありましたし、プレ大会の昨年ころから統廃合計画の加速・前倒し、補助金等の減額や打ち切りなど一層困難さ、先ゆきの不透明さが拡大しました。 それらを乗り越えて大会を成し遂げることができたのは、会員諸氏の「統合するならなおさら子どもたちに力をつけさせたい。」の言葉に代表される子どもへの愛情と熱意、近隣校の協力、道へき複連の支えと連携、各市町教育委員会、空知教育局の指導と援助等のおかげです。子どもを思い、へき地複式教育研究の充実発展を願う多くの心が結集しての大会であったと振り返り、感謝に堪えません。

分科会では、各校の条件や特色が生かされ、子どもたちが生き生きと学びに取り組む姿を見ていただけたことと思います。複式の指導過程においても学習内容と児童の実態に照らして工夫がなされ、『いつでも・どこでも・だれでも』できる、を目指してきたへき複連の研究にお役に立つことができたのではないかと思っております。

空知大会にご参加の皆様からいただいた貴重なご助言・ご示唆を参考にへき地複式教育研究の一層の充実発展を図り、これからも予想される困難を乗り越える力としてまいります。

終わりになりましたが、空知大会開催にあたり、北海道教育委員会、空知教育局、管内市町教育委員会、教育関係諸機関の皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げご挨拶といたします。